

オリ・パラ かわらばん No.4

香川県教育委員会



「感謝」

(経歴)

田淵 晋 (たぶち すすむ)

香川県綾歌郡宇多津町出身、3歳より水泳を始める。
香川県立坂出高等学校、早稲田大学教育学部卒業。1998年、香川県で開催された高校総体の200m個人メドレーで優勝。2000年、日本選手権の男子400m個人メドレーで日本記録(当時:4分16秒04)を樹立し優勝。シドニーオリンピック、アテネオリンピックに出場。

皆さま、こんにちは。田淵晋です。香川県綾歌郡宇多津町で生まれて、高校3年まで香川県で、大学から現在まで東京で生活しております。水泳は、3歳から始め、25歳の時に現役を引退、現在はイオンリテール株式会社スポーツ&レジャー事業本部でスポーツクラブの仕事をしております。

私は、2000年のシドニーオリンピックと2004年のアテネオリンピックで、競泳200m個人メドレーと400m個人メドレーで、2大会連続出場することができました。改めて皆さま方の多大なるご支援とご声援、ありがとうございました。

今回は夢のオリンピック出場までの道のりや、オリンピックの舞台で得た経験についてお話ししたいと思います。

水泳との出会い、そしてオリンピック出場へ

私が水泳を始めたのは3歳。当時は身体が弱く、体力作りのために始めました。幼稚園までは、いつもプールに行くと泣いていたことを記憶しています。それでも体力作りのために、半ば強制的に休まずプールに通っていました。そんな私が、水泳を好きになり魅力的に感じたのは、小学4年生の頃でした。その頃、県大会で決勝に残れるようになり、勝負というドキドキ感やワクワク感を味わえたことに加え、試合に負けて「悔しい、勝ちたい」といった心境の変化が大きかったと思います。また、小学校の朝礼では、水泳大会で好成績を残し表彰をしてくれ、周りから注目されるようになったことも、更なるモチベーションアップにつながったように思います。そして、小学校を卒業した頃から、「オリンピックに出場したいな」という目標が出てきて、水泳に対して更に真剣に取り組むようになりました。当時は振り返った時、「出会い」や「感謝すべき人物」がたくさんいる中で、皆さまに知っておいてほしい3人を紹介したいと思います。この3人と出会わなければ、おそらくオリンピック出場はあり得ませんでした。

高田コーチへの感謝

まず1人目。ジャパンスイミングスクール高田コーチの存在です。

普段の練習は、自主性に任せてくれていて、頑張っても頑張らなくても怒らないコーチでした。私も頑張れた日もあれば、頑張れなかった日もありましたが、そんな時も怒られることや注意されることはありませんでした。

しかし唯一怒られたのが、1999年、香川で開催されたインターハイで、優勝できる種目であった400m個人メドレーでライバルに大差で負けた時でした。レース後、高田コーチに呼ばれて、コンコンと説教されました。何を言われたかほとんど記憶に残っていませんが(笑)今考えると、それだけ私に期待をしてくれていたのかなあ。高田コーチ自身が、「優勝させたい」「優勝できる」と思っていたからこそ、できなかった時の悔しさが、怒りに変わったのではないかと思います。その時、水泳は個人競技ですが、自分一人で戦っているのではないと感じた瞬間でした。その1か月後に行われた国体では、「勝つ」ことだけにこだわってレースに臨みました。自信にみなぎっていて、不安な気持ち



<小学4年生の春、高田コーチと>

は少しもありませんでした。結果、国体の400m個人メドレーで優勝することができ、香川インターハイのリベンジを果たすことができました。高田コーチもおそらく印象的なレースの1つとして挙げて頂けるのではないかと思います。このレース以降、私は急成長することができました。人生のターニングポイントでした。高田コーチ、指導してくれてありがとうございました！

角間監督への感謝

2人目。早稲田大学の故、角間監督の存在です。

高校時代、地元インターハイ優勝、国体優勝と自分自身過去最高の成績を収める事ができ、高校3年生の秋、いろいろな大学から勧誘を頂きました。名だたる大学の中から私の心を大きく揺れ動かしたのは、「早稲田大学」でした。

わざわざ坂出高校まで来ていただき、熱心に大学練習の様子などを伝えてくれたのは、他大学も同じでしたが、角間監督から「君を必ずオリンピック選手にしてみせるからぜひ早稲田大学へ来てほしい」というお言葉を頂き、オリンピックに出場したいと本気で思えたことから「早稲田大学」に決めました。私が大学に入った時、角間監督は癌の治療のため、大学練習に来ることは難しい状況でしたが、体調がいいときは、練習に来られて「こうした方がいい」とか「この練習はしっかり意識してがんばりなさい」「お前は絶対オリンピックに行けるから、もっと頑張れ」と鼓舞して頂きました。しかし私が大学1年の冬、癌には勝てずお亡くなりになりました。亡くなる前に手紙を頂きました。「オリンピック選考会でこのタイムを出せる」「シドニーオリンピックではこのタイムを出してメダルを獲得」といった内容でした。2000年のシドニーオリンピックの代表選考会は、ジャージのポケットに角間監督から頂いた手紙(遺書)を持ってレースに臨みました。まさか日本新記録で優勝できるとは、自分自身も周りも思っていませんでした。角間監督の予言があたり、衝撃的なデビューを果たすことができました。改めて角間監督の言葉の重みを感じられ、早稲田大学に入ってよかった、信じてついていってよかった、と感謝の気持ちでいっぱいです。角間監督ありがとうございました！



<シドニーオリンピック代表選考会>

両親への感謝

3人目。両親の存在です。

高校までスイミングスクールへ妹も含めて4往復して、送り迎えしてくれたこと、そして水泳を続けさせてくれたこと。裕福な家庭ではありませんでしたが、水泳用品、食事、合宿など最大限のサポートしてくれたこと。

オリンピックで残念な結果となり、メディアや友達から見捨てられ、すごく辛い時期がありました。そんな中でも両親は、結果がどうであれ常に応援してくれていました。おそらく両親は私以上につらかったと思います。

私自身の最終目標は「オリンピックでメダル獲得」でした。その目標は叶いませんでしたが、目標の1つであったオリンピック出場は両親とともに勝ち取ることができました。改めて支えてくれてありがとうございました！

香川県の子どもたちへ

それ以外にも、ライバルや友達、先生、学校関係者、水泳関係者など多くの方々のご尽力とご支援のおかげで2大会連続でのオリンピック出場ができました。今後、私の役割や使命は、香川県の子どもたちに、夢と希望を持ってスポーツや学問に取り組み、前を向いて突き進んでもらうことです。2020年の東京オリンピックやそれ以降のオリンピック、パラリンピック、スポーツ大会で香川県の子どもたちに活躍して頂けることを期待しております。ありがとうございました！



<アテネオリンピック>